

Elevated Expression Level of MicroRNA-196a Is Predictive of Intestinal Type Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm of the Pancreas

安藤, 鉄平

<https://hdl.handle.net/2324/1441093>

出版情報：九州大学, 2013, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

論文審査の結果の要旨

膵管内乳頭粘液性腫瘍（以下IPMN）は、軽度異型から浸潤癌まで、幅広い病理像を示す膵癌前駆病変の一種である。悪性度とは別に、形態学的に4つの組織亜型（異型・腸型・胆膵型・好酸性顆粒細胞型）に分類され、このうち、腸型は他の型（非腸型）に比べ、より高度異型を示す一方で、切除後の予後は良好であるという臨床病理学的特徴を持つ。その為、術前に正確に腸型IPMNを予測することで適切な治療方針を決定できると考え、本研究では、腸型形質とmicroRNA-196a (miR-196a) 高発現の関係がIPMNにおいても当てはまる可能性を調べることを目的とした。

本研究では、IPMN切除組織（34例）および膵液サンプル（36例）を用い、miR-196a発現レベルの違いにより腸型IPMNと非腸型IPMNを鑑別できるかを検討した。定量的逆転写ポリメラーゼ連鎖反応法により、腸型IPMNおよび非腸型IPMN切除組織中のmiR-196a発現量を解析したところ、有意に腸型IPMN組織においてmiR-196aが高発現しており（ $P < 0.001$ ）、また、膵液サンプル中のmiR-196aを測定したところ、同様に腸型IPMNの膵液サンプル中のmiR-196aは非腸型IPMNの膵液サンプルに比べ有意に高く（ $p = 0.008$ ）、膵液中のmiR-196a解析による腸型IPMNの診断予測感度、特異度は共に83%であることが判明した。

これらのことから、miR-196a高発現と、腸型IPMNは関連しており、術前に膵液中のmiR-196aを解析することで、腸型IPMNの診断予測ができる可能性が示唆された。

以上の成績は、この方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験は、まず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容、及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。

よって、調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。